

研修報告書 No. 3

所 属： 三豊総合病院

研修先： 嶺北中央病院

この度 2024 年 4 月 8 日から 5 月 3 日にかけて、高知県の本山町立国保嶺北中央病院で地域医療研修を行いましたのでここに報告いたします。

私が臨床研修を行っている三豊総合病院は香川県西部の三豊・観音寺市に位置しており、三豊市は私が生まれ育った土地でもあります。香川県の中でも田舎と呼ばれる地域であり、私自身も田舎に対して耐性があると自負していましたが、今回訪れた嶺北地域は私の想像とは大きく異なるものでした。病院の近隣にはスーパーマーケットやドラッグストアもあり住みやすい環境でしたが、訪問診療や診療所業務の際には嶺北地域の特異性を身をもって感じました。雄大な早明浦湖・美しい吉野川をはさんで大きく切り立った山岳部、その中にいくつもの集落が見られました。集落が存在する山の深さやそこまでの道路の険しさなど、平坦で移動しやすい香川県とまるで違い、病院・診療所まで車を運転できなければたどり着くこともできない、美しく雄大であるが故の厳しい環境にとっても驚きました。

高齢化率に関しても研修開始直後にお話しを伺い、日本でも上位の高齢化率であり、十数年後の日本社会の人口比率とも言われているとのことでした。抱えている疾患としても、心不全、脳卒中既往、整形外科疾患などが高齢化に伴い増加し、かつフォローを必要とする疾患が多く、訪問診療・診療所運営は必須であると感じました。

病院としては、外来診療、増悪時の入院治療、緊急疾患の際の高次医療機関への適切でスムーズな搬送が求められていました。また、慢性期病院として、長期の療養や退院を目指すだけでなくその後のフォロー・生活などまで考慮した上での医療の提供が必要とされていました。そのような医療を提供するため、緊急疾患・入院適応を適切に診断する臨床能力だけでなく、医師として自施設の地域における役割・診療能力・治療介入の限界を理解することが重要であると感じました。また、患者さんに外来・入院中・退院後で包括的な治療を提供するためには多職種の方々との連携も重要であると感じ、研修内容として放射線画像撮影やデイケア、リハビリなども含まれていることから、その関係性を重要視しているのが伝わりました。

研修内容としては、訪問診療・診療所への同行、各科外来診療・見学、各種検査、病棟業務、救急搬送患者対応と、基本的には内科診療で研修を行いました。診療所、内科外来では実際に外来診療を行い、新患だけでなく定期通院の外来や紙カルテ記載など自施設ではできない経験もすることができました。また、院内の多職種の業務を見学・経験する機会もありました。実際に放射線検査やリハビリの現場に行き、診療から離れて患者さんと接するのは研修を開始してから初めての機会であり、医師とは違う視点での患者さんへのかかわり

方を学ぶことができました。特にリハビリやデイケアでは一人一人の患者さんと接する時間が長く、その方の疾患についてだけでなく、社会的背景や生活環境なども具体的に把握しておられました。その人の能力だけでなく、性格や実際の生活環境に応じて自宅生活可能な状態まで回復・向上させることの難しさを感じました。

今回 1 か月という短い期間ではありましたが、嶺北中央病院で地域医療に携わることができました。今回の研修を通じて、自身の診療能力を高める必要性は勿論のこと、その地域における医療・病院のあり方を意識することの重要性を感じました。また疾患に対してだけでなく、患者さん本人への包括的な医療の提供といったものを意識するようになり、改めて多職種の方々との連携が重要だと感じました。今後、医師としてどのような場所で働いていくにしても、今回の研修で学んだことを心にとめて診療に励みたいと思います。

受け入れをして下さった嶺北中央病院の職員の方々、調整をして下さった高知医療再生機構の方々のおかげで今回の地域医療研修を行うことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。